

冬の厳しい寒さも和らぎ、徐々に春の温かさが感じられ、いよいよ春めいてまいりました。

本日は、私たち卒業生のためにこのような式典を開催して頂きまして誠にありがとうございます。そして、ご多忙の中ご臨席賜りました安部理事長、安東学長をはじめとした諸先生方、またご臨席を予定していただいたご来賓の皆様、保護者の皆様に卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

長崎国際大学で過ごした四年間を思い返すと、仲間たちとともに、教室で講義を受けたこと、実際の福祉の現場で実習を行ったこと、ゼミの仲間たちと卒業論文を協力して完成させたこと、資格取得に向けて勉強したこと、将来のことについて語り合ったこと等、様々な思い出が蘇ってきます。また、日々の授業では、制度の狭間に立たされ、支援を求めている人が地域に多く存在すること、相手を尊重し、受容することの重要性等、多くのことを学び、福祉専門職者としての自己を確立することができました。

一方で、コロナ禍、一步外を出ればマスクが必要となる二年間を過ごすこととなり、授業や就職活動ではリモートが導入され、様々なイベントや大会も中止が相次ぎ、とても心細く、何度も心が折れそうになりました。特に、国家試験の勉強を行うときに励ましあう仲間が隣にいないことは、とても心細かったです。

しかし、きっとみんなも頑張っているから自分も頑張ろうと前向きに考えることができたのは、この四年間でできた最高の仲間たちに巡り合えたからだと感じています。また、長崎国際大学では、PCR検査やワクチン接種をはじめ、できる限り大学に来て学ぶことができる体制を教職員の皆様が整えてくださいました。

私達は、苦しい状況にいる時こそ、共に気遣い、助け合い、困難に立ち向かっていくことが大切であり、「当たり前前のようにある日常」は「いつも人から、そして心から」築き上げられていることを皆様から学びました。

この四年間での皆様との出会いこそ、私にとつての人生の宝物です。

さて、私たちは今、大学生生活の重みが詰まった学位記を頂きました。本日をもって長崎国際大学を巣立ち、新たなステージへとあゆみ始めます。在学中の4年の間に日本では、地震や大規模な豪雨災害が発生しました。世界に目を向けると、地球温暖化などの環境問題や食糧問題、新型コロナウイルスの流行、ウクライナ問題など、解決すべき問題が山積しています。それでも、これまで大学で培ってきた経験が必ず私達の糧となり、目の前に立ちただかるこれらの諸問題に対し、必ず乗り越えられると信じています。

また、大学生活を通して学んだ知識や学問はもちろんのこと、ホスピタリティや人間尊重、「いつも人から、そして心から」のモットーなどを忘れず、それぞれの分野で活躍し、一人一人が託された使命を精一杯果たしていきたいと思えます。

最後になりましたが、本日まで真摯にご指導、ご支援していただいた諸先生方、職員の皆様、共に刺激を支え合った仲間たち、温かく見守り続けてくれた家族をはじめ、多くの支えがあつて無事に卒業の日を迎えることが出来ました。これまで支えてくれた全ての方々に心よりお礼申し上げます。そして、皆様のご健康と長崎国際大学の益々の発展を願い、卒業の挨拶とさせて頂きます。

令和四年三月十二日

卒業生代表

人間社会学部 社会福祉学科

原口 春香